憶念（おくねん）

■楽曲データ

歌詞：原真弓　作詞

楽曲：森琢磨　作曲

発表：仏教音楽研究所　1995年

初演：「蓮如上人ビッグフェスタ500 全国組長フォーラム」　1995年10月13日 本願寺御影堂

初出：『佛教音楽』第33号　仏教音楽研究所　1996年３月

管理番号：M1576

■創作の経緯

献供用の音楽として制作。

■校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第４巻収録

底資料：版下原稿

比較資料：―

校訂の詳細：特記事項なし

■解説

◆作品について

詞は、阿弥陀如来の智慧を表す「灯」、慈悲を表す「華」、そして徳のはたらきを表した「香」を、直截なわかりやすい言葉で表現しています。

曲名にもなっている「憶念」には、単に「心にたもって忘れないこと」という意味だけではなく、「常に仏恩を思って忘れずに称名する。常に南無阿弥陀仏と称えること」という意味があります。曲名にこめられた意味をふまえて歌いましょう。

◆作詞者・作曲者について

作詞の原真弓（1958～）は、顕如上人400回忌法要のイメージソング《太陽からの手紙》（1990年発表）の作詞を委嘱されたことで、本願寺とのご縁ができました。その後も、「新しい感覚の仏教讃歌」のひとつとして《ひかりあふれて》を作詞しています。

作曲の森琢磨（1965～）は、大阪音楽大学で声楽を学ぶとともに、エレクトーン奏者としても活動。CD『和雅音』の編曲・演奏を担当したほか、仏教讃歌

《念仏》を作曲しました。

◆歌い方について

①Andante（ゆっくりと、歩く速さで）というテンポが指示されています。献供に用いるときは、実際の歩行のスピードとあうよう、打ち合わせをしましょう。

②旋律には、８分音符や16分音符などの細かな動きがありません。４分音符の連なりをいかに滑らかに歌うかがポイントです。

③音程や声の響きを保つための手がかりとして、音符の符頭を結んだ線よりも、少し上のラインをイメージしながら歌ってみてください。

④４小節を息継ぎなしで、ひとまとまりとして歌えるよう、練習してみましょう。

⑤14・30・54小節目は、１拍目と２拍目の間に言葉の切れ目があります。語頭である２拍目をはっきりと発音しましょう。

⑥17～20・33～36・57～60小節目は、豊かな音量を保って。ビブラートは少ないほうが清楚な印象になります。

⑦22・38・62小節目の下降音階で急がないように、注意しましょう。

◆用途・音源

音楽法要や音楽礼拝では、他の曲との組合わせやバランスなども考慮して選曲しましょう。

音源は、CD『憶念　つどいの音楽』に収録されています。

二部合唱で歌う場合は、楽譜集『讃歌集　二部合唱』第６巻掲載の楽譜をご覧ください。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者　福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 30（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第 155 号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.